

平成 21 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520230

研究課題名（和文） 書籍巻末ブックリストが反映する王政復古期の社会と書物の関係についての研究

研究課題名（英文） Books and Society in Restoration England: What do Booklists Reflect?

研究代表者

高野 美千代 (TAKANO MICHIO)

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：10289811

研究成果の概要：

17世紀イギリスで定着していった書籍広告であるブックリストが、書籍商や顧客にとってどのような意義を持つのか、王政復古期ロンドン主要書籍商リチャード・チズウェルが出版した書籍に印刷/挿入されたものに注目し、出版史および書物史において、世界的にもさらなる研究が待たれる部分を掘り下げた。100を超えるリストの分析によって、ブックリストが多面的な価値を持つ歴史的資料であることを証明した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	600,000	4,000,000

研究分野：イギリス文学、イギリス書物史

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：17世紀英文学、リチャード・チズウェル、書物史、ブックリスト、予約出版

1. 研究開始当初の背景

(1)王政復古期文学と社会との関係を研究し、数多くの原書にあたっていた際、書籍巻末ブックリストの存在を認識するようになった。世界的にも研究が十分に行われていない書籍巻末ブックリストに関して、王政復古期の

主要書籍商であるリチャード・チズウェルに焦点を当てながら調査を進めることとした。チズウェルは広い領域の書籍を扱っており、あらゆる分野の著者・読者と身近な関係にあり、よって時代の全体像を把握するのに最適な書籍商であったと仮定した。そして、この研究によって、当時の出版事情、書籍商と著

者の関係などブックリストから分析することができる事柄を追求しようと計画するに至った。

2. 研究の目的

(1)書籍巻末ブックリストは新刊・既刊書籍の広告である。商業的な意図をもって作成され挿入されたことは確かであるが、と同時に、本の出版者である書籍商と著者、顧客の関係を示す情報を含む貴重な資料である。チズウェルは1000点ほどの書籍を出版しており、幅広い分野の書物を扱った。これほどの書籍を販売するには当然なんらかの工夫が必要となった。ひとつはこのブックリストであるが、それゆえ彼の出版物の約10分の1に巻末ブックリストを見出すことができる。この研究ではチズウェルによる100種を超える例を分析することで、ブックリストの価値を証明することを目的とした。

(2)ブックリストを一種のパラテキストと捕らえ、書物史の視点から新たな英文学研究の可能性を探ることとした。ブックリストが書籍に与える付加価値、あるいは現代の読者に与える意義を検討することとした。書物史においても、ブックリストに限定すれば世界的にもごく稀な研究であり、先駆的性格を持つ。

(3)書籍商リチャード・チズウェルに関しては、膨大な書籍を出版した実績を持つ重要人物であるにもかかわらず、伝記的資料も研究も乏しいのが現状である。この研究を行うことによって、彼の宗教的・政治的スタンスを出版物から解明し、チズウェルの再評価を試みることにした。

3. 研究の方法

(1)データベースに収められていない書籍も存在するため、イギリス現地に於いて主要図書館を利用し、実際のブックリストの調査を行い、また、コピーを収集した。チズウェルに限定せず、比較対象のため必要な同時代の主要書籍商のブックリストや予約者リストについても収集を試みた。

(2)17世紀イギリス書籍、歴史についての研究で著名なヨーク大学グレアム・パリー教授および世界的にも稀なブックリスト研究者であるインディアナ大学ピーター・リンデンバウム教授との共同研究を行うこととした。パリー教授からは出版物に関してとくに細部にわたる助言を得た。リンデンバウム教授からは書物史に関わる部分を重点的に、とく

にチズウェルやその他主要書籍商（ヘリンマン、モウズリーら）について専門知識に基づく貴重な情報を得た。

(3)チズウェル以外の17世紀後半のロンドン主要書籍商についても資料を収集し、扱った書籍の種類、冊数、ブックリスト等を調査し、チズウェルとの比較を試みた。

4. 研究成果

(1)現地調査については3年間の研究期間のうち5回行い、十分な資料を手にすることができた。具体的には、大英博物館や主要大学図書館での調査研究によって実際に多くの原本を手に取り、細部にわたる文献の検討を行うことができた。同時に現地にて研究協力者であるパリー教授とリンデンバウム教授に面会し、議論を重ね、また、新たな知見を得ることができた。パリー教授からは同様の分野を研究する専門家クリストファー・ロウ氏を紹介してもらい、情報交換を行ったり、彼が所有する文献資料の閲覧を行ったりした。リンデンバウム教授からは現在イギリス国内で行われているこの分野の研究の最新状況を説明してもらい、また、重要資料の情報提供を受けるなどした。さらには現在のイギリスで稀覯本を扱う主要書籍業者からも17世紀の出版事情・書籍商については非常に有益な情報を得ることができた。今後の研究につながるものとみなしている。

(2)チズウェルによるブックリストの収集・分析は一通り完了した。そのことにより、書籍商チズウェルが著者サイモン・パトリックおよびギルバート・バーネットを特に重視しており、そのことが彼の宗教的、政治的スタンスを暗示するものであることが判明した。ただし、これはチズウェルの義父で17世紀後半の著名なロンドン書籍商であるリチャード・ロイストンの影響を考慮せねば確信には至らない。したがってチズウェルがロイストンの死後取り扱うようになったロイストンによる出版物を、チズウェル独自の出版物と照合し、分離する作業が必要である。この作業は未だ中途段階であり完了していないため、さらに精査し、より正確に事実を解明したい。

(3)書物史という観点から様々な17世紀の書籍資料にアプローチした中で、トラクト/パンフレットとみなすことができる王政復古期前後の文献について興味深い考察ができた。それは、ジョン・イーヴリンによる小型(12折版)の書物“A Character of England”に関してであり、時代の出版事

情・著者と読者との関係などを検討し、論文にまとめた。

(4) パラテキストとしてのブックリスト研究の過程で、同じパラテキストの範疇に入らうサブスクライバーリストの存在を知った。これも歴史的価値を大いに含む貴重な資料であり、本来、学術的貴重図書のための出版制度として始まったサブスクリプションについて、また、書籍商・著者・顧客との関係を示すものである。この問題についてはアンソニー・ウッドの *Athenae Oxonienses* を例に調査分析し、論文にまとめた。プリントランという常に困難な問題もこのリストから解明がしやすくなる。また、予約出版者の氏名から当時の知的背景も浮き彫りにされる。当初は商業的狙いで挿入されたかもしれないが、サブスクライバーリストの歴史的資料としての価値は重大であるということがこの研究から明らかになった。

(5) チズウェルのブックリストを1680年から20年分検証した結果、1690年代に変化が発生したことに気づいた。1680年代以前にもブックリストは存在するが、その数は少なく、本格的にリストが作成されるようになったのは1680年前後と考えることができるため、この時期から20年間のブックリストに注目した。1680年代、チズウェルのリストは安定していた。ページ数も多く、判ごとに様々な領域の書籍を紹介するという手法が主であった。これは、出版物を一齐に広告する *Term Catalogues* が多くの人目に触れるようになり、それと同時に書籍商の側でも自らの出版物を整理して、とくに力を入れて売りたい書籍を中心に紹介する準備が整ったことが一因であると考えられる。80年代と異なり、90年代になると多くの分野の書籍を一度に扱う「総合的」リストが極端に少なくなり、反対に一著者あるいは一分野の書物を扱う「集中的」リストが過半数を占めるようになった。また、コンガーという共同出版の制度が始まると、別の書籍商との連名で出版される書籍が目立つようになり、個別リストがさらに減少した。また、同じリストが複数回(別の書物に)使用されることは滅多になく、新規に書籍1, 2点を追加するケースのようなマイナーチェンジの場合であっても、植字工はおそらくそのたびごとに版を起こしていたと推測できる。これらの点についても論文にまとめた。

(6) 17世紀イギリスの書物と歴史をテーマに国際学術集会を開催した。2009年2月、山梨県甲府市に於いて、イギリスヨーク大学のグレアム・パリー教授を招き、17世紀の書籍と社会の関連の講演を依頼した。パリー教授に

はとくにウィリアム・カムデンの『ブリタニア』に関して、歴史的コンテクストをふまえ、出版事情や思想的背景を含めての講演をしていただいた。イギリスにおけるトポグラフィーと呼ばれる新たな小ジャンルや好古学研究の先駆とも言えるこの作品は、文学と歴史が絡み合う領域に含まれるものであり、書物史の点からみても講演は大変貴重であった。講演のあとは講師と聴衆との間で非常に活発な意見交換も行われ、大変有意義な学術集会となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

高野美千代 「書籍商チズウェルによる1680年から1700年のブックリスト研究」『山梨国際研究』、4巻、57-68ページ、2009、査読有

高野美千代 「Anthony a Wood による *Athenae Oxonienses* 初版と17世紀イギリスの予約出版」、『山梨国際研究』、3巻、73-82ページ、2008、査読有

高野美千代 「イングランドの文化再構築を目指して～ジョン・イーヴリンの“A Character of England”が意味するもの～」『山梨国際研究』、2巻、25-34ページ、2007、査読有

[学会発表](計 1 件)

高野美千代 「書籍商チズウェルのブックリストからみる王政復古期の出版物と社会」17世紀英文学会、2006年4月15日、於：明治学院大学

[その他]

国際学術集会実施
2009年2月19日(於：山梨県甲府市)
『17世紀の書物と歴史に関する国際研究集会』
講師：英国ヨーク大学名誉教授
グレアム・パリー博士

国際学術集会報告書
高野美千代 『17世紀イギリスの書物と歴史に関する国際研究集会報告書』2009年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高野 美千代 (TAKANO MICHIO)
山梨県立大学・国際政策学部・准教授
研究者番号：10289811

(2)研究協力者

グレアム・パリー (PARRY, GRAHAM)
英国ヨーク大学教授

ピーター・リンデンバウム (LINDENBAUM,
PETER)
米国インディアナ大学教授